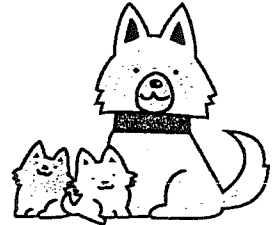


大学図書館問題研究会 京 都

URL : <http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/index.htm>

〒 621-8555 京都府亀岡市曾我部町南条1-1 京都学園大学総合研究所事務室 大館和郎気付
(TEL) 0771-29-2392 (FAX) 0771-29-2388

京都ワンデーセミナーのご案内



大学図書館における 電子的情報の利用と提供

デジタル・ネットワーク時代において、大学図書館の役割は大きく変容してきています。研究者や学生の情報収集方法も、温度差はあれ確実に変化してきています。

ちまたには、電子的情報があふれています。電子ジャーナルや各種データベース等の電子的情報はどのように使われているのでしょうか。

研究者や学生は、どのような電子的情報の提供を求めているのでしょうか。

大学図書館として、今後どのような電子的情報を提供すべきなのでしょうか。

電子的情報を「利用する側」と「提供する側」双方からのお話をうかがうことによって、これからの大学図書館の鍵となる電子的情報について、じっくり考えてみませんか。

皆様のご参加お待ちしております。

<講師>

利用する側：引原隆士氏(京都大学工学研究科教授)

提供する側：坂上光明氏(東北大学附属図書館事務部長)

日時：

2002年7月6日(土)
13:30-17:00

場所：

京都アスニー第4研究室

会費：1,000円

目次	司馬遼太郎記念館見学会のご案内……1頁 立命館大学におけるコアデータベース講習会……2頁 第9回京都支部委員会報告……3頁 司馬遼太郎記念館見学会……4頁
ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで 編集気付 (dkamr302@kyoto.zaq.ne.jp) 田北まで	

「司馬遼太郎記念館見学」 —初夏の文化の日—

中嶋 スエ子

記念館完成のニュースを見て壁面一杯に広がる木製の書架が印象に残っていました。

一度訪ねて見たいと思いつつも、さてとなると初めてのかの地は遠く、この機会がなければ実現は遠い先のことだったでしょう。案内をもらってすぐに予定をたてました。午前中は奈良国立博物館で開催の東大寺展を鑑賞、久しぶりに大仏様を拝んで二月堂界限を散策する計画をたてました。友人にこの計画を話すと即、賛同をえました。

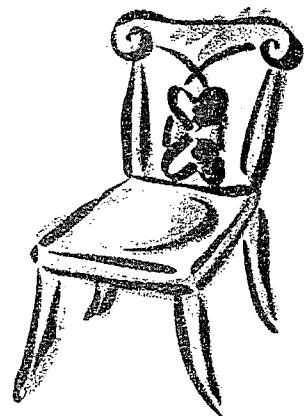
晴おぼさんの私たちは、当日も快晴、抜けるような青空のもとまずはなつかしの近鉄奈良線の車窓から真新しい朱雀門を眺め久しぶりの奈良へ心を躍らせました。

博物館へは10時過ぎに入館できたので、入場者も思ったよりは少なく、期待の日光・月光菩薩さまをついとうっとり鑑賞してしまいました。お寺ではご本尊様、脇士様として拝む事が多くなった最近なのに、場所が変わると美術品としてみてしまうのでしょうか。

高僧方の像の深遠な容貌と、現代の国会で見る（テレビ上ではありますが）人々の顔を比べて暗い想いで外へ出たのですが、奈良公園界限は若草山をはじめ新緑から深緑の緑一杯の美しい世界でした。

小学校の遠足以来の大仏殿を拝観し、二月堂はお水取りの行事をみるため？市内で一泊したとき以来〇〇年ぶりでした。（当時、私の希望がかない日本史サークルが誕生、組合ルートで京大の先生に講師をお願いしていたのですがそこからの見学会でした）欄干の下で松明の火の粉をかぶり、礼堂の僧たちの「走りの行」を覗き、別世界を体験した後、真っ暗な飛火野を急いで宿へ帰ったのを覚えています。

この日の二月堂からは快晴の空の下、市街から生駒の山々もくっきり、風も爽やかで至福のひと時でした。そして本来の目的の記念館へ向かったのです。





生駒駅以西は初めての沿線。「河内花園」駅では日本のラグビー界を憂い？ここだったのかなどとちょっとしたミニ旅行気分も味わう車窓でした。（この文を記しているころ日本中は、新聞もテレビも、サッカー一色でした）

八戸ノ里駅からは HP の地図をたどれば予定通り、定刻 15 分前に記念館前に到着。住宅街の一角、中へ入ると別世界で水を打ったお庭を通ります。（自動販売機で入場券を購入するのが少々違和感を覚えましたけれども事情があるでしょう）庭は氏の好きだった雑木林のイメージでつくられており花の時期にはずれたのかここでも緑がいっぱいでした。

庭からガラス戸越しに書斎をみます。サンルームの奥に氏仕様の手元の側がカーブになっている机が、書棚に囲まれて中央に置かれ、全体が明るいイメージでした。ふと生前の姿を連想しつつ、安藤忠雄氏設計の記念館へと向かいます。

こちらも美しく手入れされた芝生をみながらガラスの回廊をたどると記念館入口です。見学者もちらほらと落ち着いた館内で大図研京都支部の見学会参加者は会員外とあわせて 8 名、好企画と思った私には意外でしたが、それだけ図書館員の仕事も嗜好も多様化して忙しくなっていることなののでしょうか？

そういう私自身も「街道をゆく」を少し読んだのも、挿絵の須田画伯（奥様？）に甥が絵を習っていたご縁で関心を持ったから。「司馬遼太郎」の愛読者ではなく、大書架を見たいのが第一の動機の参加でした。

一階フロアのハイビジョンで、自宅蔵書の様子を撮影した映像を 15 分ばかり見ながら“もうひとつの書斎”が広がる地下一階の展示室へ向かいます。直筆原稿や手紙の展示品と高さ 11 メートルの壁面いっぱいにとりつけられた書棚に、2 万余冊もの蔵書がイメージ展示されています。

自宅は自著本も含めて玄関・廊下・書斎・書庫と 4 万冊ほどの本でいっぱいで大書架はその雰囲気を見せているそうです。

壁面を見上げると少々圧倒されますが、木のぬくもりにつつまれたゆったりした空間でのひと時は何かほっとするものがありました。

* 司馬遼太郎記念館は、来館された方々それぞれに何かを感じ取っていただけるような、あるいは司馬作品との対話、自分自身との対話などを通じて何かを考えることのできる、そんな空間でありたいと思っています。（記念館チラシより）*

蔵書のなかに愛読書を見つけ少し近づけた？気分とともに記念館を後に「今日は文化の日」だったと話しつつ豊かな気分で家路につきました。

なかじま・すえこ（京都大学航空宇宙図書室）

第10回京都支部委員会

日時：2002年5月14日(火) 19:00 - 20:30
場所：京都大学附属図書館3Fスタッフルーム
出席：大館、金森、呑海、吉田

【報告事項】

1. 会員情報
 - ・京都支部会員：86名
 - ・退会：5名
 - ・退職：4名
2. 財政情報
 - ・会費納入者 66名(納入率 70%)

【審議事項】

1. ワンデイセミナーについて
 - 1) テーマ 電子ジャーナル：提供と利用(仮称)
 - 2) 講師：未定
 - 3) 日時：2002年7月6日(土) 13:30-16:40
 - 4) 場所：京都アスニー第4研修室
2. 見学会について
 - ・参加申込(5月14日現在) 会員 3名 非会員 4名
3. 支部報について
 - ・5月号
ワンデイセミナー案内
数珠つなぎ(大阪市立大学から、京都大学から)
 - ・6月号
見学会感想

次回支部委員会 6月4日(火)



大図研京都のホームページ URL

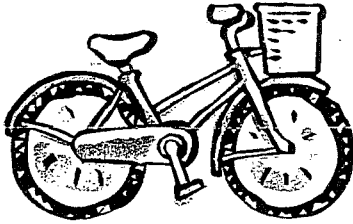
<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/index.htm>

大図研への入会、メーリングリスト加入は、ここから出来ます！

会費納入のお願い

2002年度会費未納の会員さんは、至急会費の納入をお願いします。
会費の問い合わせは財政担当者、最寄りの支部委員までお願いします。
ワンデーセミナー参加時に持参していただいても結構です。

(数珠つなぎ 6 ページから)



* インターネット情報が増加して、日々のレファレンスにも必要不可欠になっています。特に Google が公開されてからは、まったく探索の糸がつかめない資料や事柄はとりあえず Google で検索してみる、という手法を日常的に使用するようになりました。論文等も、意外とネット上の文献の参考文献部分がヒットして、

分からなかった書誌事項が判明することがあります。

もちろん、サーチエンジンでは見つかりにくい、けどどしかりした機関が作成している有用な情報も数多くあります。これらをどうやって今以上に業務に活かすか、また利用者に紹介していくかは掛の課題ともなるでしょう。うちの掛で管理している Cybrary という厳選リンク集がありますが、これを今後どういう方向へ持っていくか、悩ましいところです。

* 学生・教職員がメールアドレスを全員取得しているという状況がここ数年で急速に整ったようです。参考調査掛が事務担当掛となっている「情報探索入門」の演習風景を見ていると、学生は日常的にメールを使いこなしているようです。先生方との連絡も、すべてメールで行っています。

この状況を積極的に図書館サービスに取り入れることを考える必要があるでしょう。情報サービス課では、附属図書館メールマガジンを創刊する予定です。他大学ではすでに実現しているところも多いメールレファレンスも、将来的には視野に入れなければならないかもしれません。

* 情報公開や法人化の流れを受けてか、今まで以上に図書館を学外へ説明する必要性が強調され始めているように感じます。うちの掛で言えば、たとえば今年の夏に京大で新しく始まるオープンキャンパスで、図書館案内をする主担当掛になっています。高校生に対して、どのように図書館を紹介すればいいのか、今からの大きな仕事の一つです。

以上、とりとめもない文章ですが、参考調査掛で仕事をしていて実感した変化のいくつかを思いつくままに挙げてみました。

就職してたった2年の初心者ですが、今、大きくしかも急激に時代が変化する時期にあることは、日々感じ取ることができます。そんな中で、参考調査掛員として、図書館員として、できることは何だろうかと常に問い掛けていきたいと思えます。



